

保育でのタブレット端末活用を促す事例集の作成

○堀田博史（園田学園女子大学）佐藤朝美（愛知淑徳大学）松河秀哉（東北大学）森田健宏（関西外国語大学）
中村恵（畿央大学）松山由美子（四天王寺大学短期大学部）深見俊崇（島根大学）

1. はじめに

保育でのタブレット端末の活用に取り組む事例が、Webサイトで散見されている。鹿児島県鹿屋市のつるみね保育園では、1台のタブレット端末を活用したハイブリッド保育を展開し、県内外から多くの視察者を受け入れている。スマートエデュケーション(株)は、園児向けの自社開発アプリを活用した教育カリキュラム¹⁾を保育現場に提供している。

このように、保育でのタブレット端末の活用は、園独自の取り組みや企業支援のもとで展開するなど多様で、今後保育でのタブレット端末を活用しようとする園にとっては、どのような取り組みが良いのか判断することは難しい。全国の幼稚園の中で取り組まれているタブレット端末の活用内容やその特徴をまとめたものを一覧できるWebサイトや資料は存在していない。

そこで本稿では、保育でのタブレット端末の活用場面を整理して、その特徴を示す。これらは、今後保育でタブレット端末活用を考えている園に参考となる。

2. タブレット端末の活用場面の整理手順

まず、全国1,000の幼稚園への質問紙調査の結果から、保育者のタブレット端末活用への期待を調査²⁾、その後Webサイト等で保育でのタブレット端末の活用内容を情報発信している園を訪問して、実践を観察、活用状況を調査した。また、文部科学省がICTによる新しい学びを目指した「学びのイノベーション事業」での低学年の活動実践も参考にして、複数の遊びのプランを作成した。

これら遊びのプランを幼稚園の先生方に提案して、意見を求め修正を加えた後、保育現場で実践し、以下の項目で14の遊びのプランに整理した。

- A 一斉の遊び
 - A1 教師による教材の提示
- B 個別の遊び
 - B1 個に応じた遊び
 - B2 調査活動
 - B3 思考を深める遊び
 - B4 表現・制作
 - B5 家庭とのつながり
- C 協働の遊び
 - C1 発表や話し合い
 - C2 協働での意見整理
 - C3 協働制作
 - C4 園の壁を越えた遊び

整理した内容は、ねらいや活動の流れ、タブレット端

末活用の意味づけ、保育者の感想などを掲載した冊子にまとめた。

3. 活用場面の特徵

タブレット端末の活用場面を整理した結果、以下の特徴が示された。

(1) アプリ等を活用した遊びの活動には、必ず「振り返り」の活動が存在する。

(2) 幼児のタブレット端末の操作法の習得は、子どもたちの教え合いで成り立つ場合が多い。

(3) 日常の遊びで繰り返しできるタブレット端末の活用では、活動が変化しても、教師にタブレット端末を活用した遊びのイメージを抱くことが可能となる。

これらの特徴より、保育でのタブレット端末の活用は、タブレット端末の記録・再現性、視聴覚に働きかける刺激などメディアの特徴を活かしながら、心情・意欲・態度など非認知的能力にも働きかける可能性があると言える。

4. まとめと今後の展開

タブレット端末を1度だけのイベントのように活用する保育を否定するのではなく、A一斉の遊び、B個別の遊び、C協働の遊びをバランスよく保育に取り入れることで、保育や日常の遊びとの繋がりが、明確になる。

今後、シンポジウム「保育でのタブレット端末活用を考えよう！」を開催して、事例集の評価を得たい。また、事例集の活動を保育のカリキュラムに取り入れる幼稚園と協働して、タブレット端末活用の効果についても研究していきたい。

参考文献

- [1] <http://kdkits.jp/index.php>（参照日：2017/01/18）
- [2] タブレット端末を活用した保育での取り組み内容の調査、堀田博史、松河秀哉 他6名、日本教育工学会第30回全国大会講演論文集、p.557-558

謝辞 本研究は JSPS 科研費基盤研究(C) (課題番号 26350295) の助成を受けたものである。



図1 事例集の表紙